令和6（2024）年度　開講科目の授業題目・内容と担当教員

目　　次

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
２４００１	外国語仏教学論著講読	落合　俊典　教授	3
２４００２	外国語仏教学論著講読	斉藤　　明　特任教授	4
２４００３	外国語仏教学論著講読	池　　麗梅　教授	5
２４００４	外国語仏教学論著講読	デレアヌ　フロリン　教授	6
２４００５	外国語仏教学論著講読	幅田　裕美　教授	8
２４００６	外国語仏教学論著講読	藤井　教公　教授	9
２４００７	論文指導	落合　俊典　教授	10
２４００８	論文指導	斉藤　　明　特任教授	11
２４００９	論文指導	池　　麗梅　教授	12
２４０１０	論文指導	デレアヌ　フロリン　教授	13
２４０１１	論文指導	幅田　裕美　教授	14
２４０１２	論文指導	藤井　教公　教授	15
２４０１３	仏教文献学方法論	落合　俊典　教授	16
２４０１４	仏教文化学方法論	宮本　久義　講師	17
２４０１５	南・東南アジア仏教文献学研究	デレアヌ　フロリン　教授	19
２４０１６	南・東南アジア仏教文献学演習	デレアヌ　フロリン　教授	21
２４０１７	内陸アジア仏教文献学研究	斉藤　　明　特任教授	22
２４０１８	内陸アジア仏教文献学研究	幅田　裕美　教授	23
２４０１９	内陸アジア仏教文献学演習	斉藤　　明　特任教授	24
２４０２０	内陸アジア仏教文献学演習	幅田　裕美　教授	25
２４０２１	東アジア仏教文献学研究	落合　俊典　教授	26
２４０２２	東アジア仏教文献学研究	池　　麗梅　教授	27
２４０２３	東アジア仏教文献学研究	藤井　教公　教授	28
２４０２４	東アジア仏教文献学演習	落合　俊典　教授	29
２４０２５	東アジア仏教文献学演習	池　　麗梅　教授	30

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
２４０２６	東アジア仏教文献学演習	藤井　教公　教授	31
２４０２７	東アジア仏教文献学演習	王　　頌　客員教授	32
２４０２８	近現代仏教研究 （仏教学と生命倫理）	土山　泰弘　講師	33
２４０２９	近現代仏教研究 （仏教学と環境問題）	土山　泰弘　講師	34
２４０３０	文化人類学	棚橋　　訓　講師	35
２４１０１	仏教学特殊研究（夏学期）	藤井　教公　教授（代表）	37
２４１０２	仏教学特殊研究（冬学期）	デレアヌ　フロリン　教授（代表）	38
２４１０３	日本語Ⅰ	宮田　聖子　講師	39
２４１０４	日本語Ⅱ	宮田　聖子　講師	40
２４１０５	古文・漢文読解Ⅰ	田戸　大智　講師	41
２４１０６	古文・漢文読解Ⅱ	小島　裕子　講師	43
２４１０７	サンスクリット語	宮本　久義　講師	45
２４１０８	サンスクリット語（中級）	須藤　龍真　講師	46
２４１０９	古典チベット語	石川　　巌　講師	47

専門科目

科目番号	２４００１
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読　　４単位
科目ナンバリング	1-4（1-5）
時限	木曜日　５時限目
担当教員氏名	落合　俊典　教授
授業題目	“隋書経籍志”著録仏書の研究
授業の目的・概要	『隋書』32 巻から 35 巻には「経籍志」が収載されている。ここに著録された典籍は、仏教と道教を除き総数が三万六千七百八巻ある。これは所謂漢籍であるが、その大半が日本へ将来されていたと想定される。ただ、10 世紀藤原佐世撰『日本国現在書目録』には巻数にすると約一万七千巻しかないが、七寺蔵『一切経論律章疏集伝録并私記』巻上の巻首には右大臣が蒐集したという漢籍が十二分類 され、その数三万九千巻と記されている。『旧唐書』や『新唐書』の芸文志とも比較しなければならないが、“隋書経籍志”は典籍目録として評価が高いにもかかわらず仏書研究は皆無である。よって本書に著録された仏書の研究を行う。
到達目標	かつて塚本善隆氏が試みた『魏書』の「釈老志」と仏教内部資料との比較対照的研究は中国仏教史研究に画期的な展開をもたらしたと言っても過言ではない。仏教内部資料だけで構成された仏教史には、論争のために事実が誇張されていたり、あるいは無から有を作り上げたりすることさえ存した。正史との事実関係を確認する作業に始まり歴史的事象を明らかにして大きな成果をもたらしたことは評価に値する。 塚本善隆氏の方法論を用い、“隋書経籍志”にある仏書を仏教内部資料中に確認する。ついで確認できない仏書を取り上げ、種々様々な方法を駆使して解明を目指す。各自１点の未解明仏書を闡明にすることが出来れば合格点となる。これが到達目標である。
授業計画	夏学期①概説１：中国史における正史。②概説２：正史の中の『隋書』。③『旧唐書』芸文志。④『隋書経籍志詳攷』説明。⑤“隋書経籍志”の仏書研究。⑥同２．⑦同３．⑧同４．⑨同５．⑩同６．⑪同７．⑫同８．⑬同９．⑭同１０．⑮同１１． 冬学期①夏学期の続き。“隋書経籍志”の仏書研究１２。②同１３．③同１４．④同１５．⑤同１６．⑥同１７．⑦同１８．⑧同１９．⑨同２０．⑩“隋書経籍志”中の仏書の整理。⑪仏書の著者研究１．⑫仏書の著者研究２．⑬仏書の著者研究３．⑭全体の質疑応答。⑮まとめ。
授業の方法	テキストとして興膳宏・川合康三共著の『隋書経籍志詳攷』を使用する。本書の凡例解題等を一読しておくことが望まれる。『隋書』経籍志の講読を『隋書経籍志詳攷』を用いながら演習形式で行う。出席者は事前に下調べを行い、考察してくることが求められる。
教員から学生へのフィードバック方法	担当箇所の発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習にはテキストデータだけの読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して訳注を完成させる。それに要する時間は 2 時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。２時間以上復習に当てる。
テキスト	興膳宏・川合康三著『隋書経籍志詳攷』（汲古書院。1995 年）
参考文献	『隋書』（点校本『正史』） 拙稿「東アジア仏教写本研究拠点の形成の概要」（“いとくら”６号。2010 年） 牧田諦亮監・落合俊典編『七寺古逸経典研究叢書』第６巻（大東出版社。1998 年） 『大正新脩大蔵経』５５巻。 孫猛著『日本国現在書目録詳考』上中下 3 冊（上海古籍出版社・2015 年）
履修上の注意	テキストが入手困難な場合には申し出てください。 研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。 コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況如何では適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４００２
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読　　４単位
科目ナンバリング	1-4（1-5）
時限	金曜日　４時限目
担当教員氏名	斉藤　　明　特任教授
授業題目	Bu ston, *History of Buddhism* (Chos ’byung) 講読
授業の目的・概要	プトゥン『仏教史』は Bu ston Rin chen ’grub (1290-1364) が 1322 年に著した作品である。チベットにおける貴重な仏教史として知られ、最終第 4 章にはチベットの後期仏教伝播期における最初の訳経論目録を置く。著者の Bu ston はまた、チベット大蔵経の旧ナルタン版（写本）のテンギュルを最終的に確定し、1334 年にシャル寺に納めたことでもよく知られる。 本書の前半部を占める仏教史部分は、第 1 章仏教概説、第 2 章インド仏教史、第 3 章（プトゥン以前の）チベット仏教史からなる。これら 3 章の翻訳は、今なお 1931 年に出版された E. Obermiller による英訳が広く利用されている。この授業では、同英訳とともに、Bu ston のチベット語文を基に読みすすめる。本年度は第 1 章（仏教概説）を扱う。
到達目標	仏教の教理と歴史の概要を英訳文およびチベット語原文で読み、考え、適確に理解することを目ざす。
授業計画	夏学期 1 The Merit of Studying and Preaching the Doctrine 2-3 The Merit of Study 4-6 The Merit of Study and Preaching Taken Together 7-10 The Merit of Studying and Preaching the Doctrine of Mahāyāna 11-12 Definition of *dharma* in the Sense of the Doctrine 13-15 The Various Aspects of the Doctrine 冬学期 1-2 Varieties of the Word *buddha* 3-4 Etymology of the Word *piṭaka* 5-8 Etymology of *sūtra*, *abhidharma*, and *vinaya* 9-11 Etymology of *śāstra* 12-15 Grammar, Prosody, Poetics, etc.
授業の方法	講義と演習を交えながら講読を行う。必要な関連資料は、随時配布する。参考文献ならびに関連研究は授業の中で紹介する。授業は英語を基本とするが、必要に応じて日本語でも対応する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭で質疑応答を行うとともに、コメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点およびレポートにより、通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に 4 時間をかけること。
テキスト	E. Obermiller, tr., *History of Buddhism (Chos-ḥbyung) by Bu-ston*, Heidelberg 1931, repr. Tokyo: Suzuki Gakujutsu Zaidan, 1964. Lokesh Chandra, ed., *The Collected Works of Bu-ston*, Part 14 (Ya), Śatapiṭaka Series, vol. 64, New Delhi: International Academy of Indian Culture, 1971.
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４００３
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読　　４単位
科目ナンバリング	1-4（1-5）
時限	金曜日　２時限目
担当教員氏名	池　麗梅　教授
授業題目	方廣錩著『大蔵経研究論集（上）』講読
授業の目的・概要	本書は漢文大蔵経の歴史を研究する上で必要不可欠とされる名著の一つである。本書の講読によって、写本大蔵経から宋元時代の刊本大蔵経に至るまで、中国と朝鮮半島における漢文大蔵経の成立と伝播を全体的に理解することを目的とする。
到達目標	本書を講読することによって、受講者が漢文大蔵経の歴史を体系的に理解し、個々の大蔵経に対して独自の視点と問題意識を持って調査・研究を深めていけるようになることが目標である。
授業計画	夏学期 第 1 回　　概説 第 2-8 回　写本大蔵経の編纂、種類と系統 第 9-15 回　刊本大蔵経の編纂、種類と系統 冬学期 第 1 回　　概説 第 2-8 回　契丹蔵の刊刻に関わる問題 第 9-15 回　房山石経について
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻訳するだけではなく、その記述内容を分析して問題点を指摘した上で、関連研究の現状ならびに今後の展望についての受講者自身の考えも踏まえて発表してもらいたい。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に４時間をかけること。
テキスト	方廣錩著『大蔵経研究論集（上）』、桂林：広西師範大学出版社、2021 年。
参考文献	方廣錩著『大蔵経研究論集（下）』、桂林：広西師範大学出版社、2021 年。
履修上の注意	積極的な授業参加が望まれる。担当者は発表原稿を人数分用意すること。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４００４
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読　　４単位
科目ナンバリング	1-4（1-5）
時限	月曜日　４時限目
担当教員氏名	デレアヌ　フロリン　教授
授業題目	Buddhist Philosophy and terminology: Readings from modern studies and canonical Sources 佛教思想と専門用語―現代研究及び原典解読―
授業の目的・概要	This year we'll look at the core doctrines and terminology of the Indian Yogācāra-Vijñānavāda tradition 瑜伽行派（唯識説）. In the summer semester, we shall read (in Japanese) and translate (into English) relevant passages from Hirakawa's *History of Indian Buddhism*, Vol. II. During the winter semester, we'll turn our attention to the *Mahāyānasūtrālaṃkāra*, one of the foundational texts of the school, and read key fragments from the Sanskrit original, comparing it to modern translations (Japanese, English, and French).
到達目標	● Gaining basic knowledge of the of the Yogācāra-Vijñānavāda philosophy. ● Becoming familiar with the style and terminology used in modern Buddhist studies and translations from traditional Buddhist sources. ● Improving modern language skills (mainly connected to intensive reading but also paying attention to listening, speaking, and writing abilities). ● Improving reading skills from canonical languages.
授業計画	Summer Semester 夏学期 (1)-(2) Introduction to modern studies on Yogācāra-Vijñānavāda Buddhism (3)-(6) 平川彰『インド仏教史』下巻, pp. 120-124 (6)-(10) 平川彰『インド仏教史』下巻, pp. 124-128 (11)-(14) 平川彰『インド仏教史』下巻, pp. 128-133 (15) Students' presentations Winter Semester 冬学期 (1)-(3) Introduction to the *Mahāyānasūtrālaṃkāra* (4)-(9) Readings from Chapter VI *Tattvādhikāra*, verses 6-10 (stanzas and commentary) (10)-(14) Readings from Chapter IX *Bodhyadhikāra*, verses12-17 (stanzas and commentary) (15) Students' presentations
授業の方法	● Classes (1)~(2) of the Summer Semester and (1)~(3) of the Winter Semester are designed as introductory lectures on the Yogācāra-Vijñānavāda modern research and the *Mahāyānasūtrālṃkāra,* respectively. ● The last class of each semester is reserved for students' presentations on subjects pertinent to the main theme of the seminar. ● For the rest of the classes, students are expected to prepare in advance the reading fragments and other relevant materials (to be indicated in each class).
教員から学生へのフィードバック方法	● 口頭による分析 ● メール等による分析（特に資料の紹介や文献分析の場合）
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：２時間 復習：２時間 授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。
テキスト	● 平川彰『インド仏教史』下巻（春秋社、１９７９年） ● Sylvain Lévi ed. [1907] 1983. *Mahāyāna-sūtrālaṃkāra*. Tome I: Texte. Kyoto: Rinsen Book Co.
参考文献	● Erich Frauwallner. 2010. *The Philosophie of Buddhism*. Translated by Gelong Lodrő Sangpo. Delhi: Motilal Banarsidass Publishers. ● Sylvain Lévi transl. [1911] 1983. *Mahāyāna-sūtrālaṃkāra*. Tome II: Traduction, Introduction, Index.

	● L. Jamspal et al. transl. 2004. *The Universal Vehicle Discourse Literature (Mahāyānasūtrālṃkāra)*. New York: Columbia Univ. Press. ● Ayako Nakamura. 2016. *Das Wesen des Buddha-Erwachens in der frühen Yogācāra-Schule*. Hamburg: Universität Hamburg.
履修上の注意	Participants must have basic knowledge of English as well as of Sanskrit and/or Classical Chinese. （止むを得ない状況により、オンライン授業を行うことがあります。）
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４００５
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読　　４単位
科目ナンバリング	1-4（1-5）
時限	木曜日　３時限目
担当教員氏名	幅田　裕美　教授
授業題目	Dieter Schlingloff, Ein buddhistisches Yogalehrbuch 講読
授業の目的・概要	本書は中央アジアに伝承されたサンスクリット語の瞑想修行の教科書である。本書の講読によって瞑想修行の実践を概観し、断片資料からテキストを校訂する方法を学ぶ。
到達目標	厳密な文献研究の方法を理解することを目標とし、あわせてドイツ語の研究書を使いこなせるようにすることを目ざす。
授業計画	2022 年度は第 X 章（upekṣā）、2023 年度は第 VII 章（maitrī）・第 VIII 章（karuṇā）・第 IX 章（muditā）を中心に講読したが、2024 年度は他の章を読む。 夏学期 第 1 回　概説 第 2 回　中央アジア写本読解の基礎 第 3 回　テキスト校訂の基礎 第 4 回　説一切有部のアビダルマと修行体系 第 5–15 回　テキスト講読 冬学期 第 1–15 回　テキスト講読
授業の方法	テキストで論述されている内容を概観し、問題点を議論する。研究対象となっている文献については適宜、原典および写本をあわせて参照し、講読する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に 4 時間をかけること
テキスト	授業の中で紹介する。
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	コロナウイルス感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４００６
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読　　４単位
科目ナンバリング	1-4（1-5）
時限	木曜日　２時限目
担当教員氏名	藤井　教公　教授
授業題目	Kazuo Kasahara ed. *A History of Japanese Religion* 講読
授業の目的・概要	本書を講読して日本仏教成立の過程と、その発展、さらにその基盤としての日本宗教思想全体についての理解を深めることを目的とする。
到達目標	本書を講読することによって新知見を増し、そこから発展して受講者自身が関連トピックを見つけ、文献資料を渉猟調査し、研究することによって自身の問題意識を拡充することを目標とする。
授業計画	前期 第 1～第 15 週までに第 11 章 Women and Buddhism (pp.285-298)を講読の予定。 後期 第 16 週から第 30 週の間に第 12 章 Shintō and Shugendō の The Development of Yoshida Shintō (pp.299-314)を講読する。
授業の方法	あらかじめ担当者と担当箇所を決めて講読する。担当者にはテキストの記述内容自体について、あるいは、それに関連する事項、またその背後にある問題について、自身が考え、調べたものを発表してもらう。また、コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うこともあり得る。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（出席率を含む）にて通年で評価。オンライン授業の場合における課題提出も評価に加える。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に 4 時間以上をかけること。
テキスト	教場でコピーを配布。
参考文献	教場でテキストの内容ごとにその都度指示する。
履修上の注意	出席励行のこと。担当者は発表原稿を人数分用意する。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４００７
科目名・単位数	論文指導　　４単位
科目ナンバリング	2-12（3-5）
時限	火曜日　３時限目
担当教員氏名	落合　俊典　教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆におけるテーマ設定から内容の指導、体裁、参考文献の取り扱い方、提出までに必要な事項等を教授する。
到達目標	仏教文献学の方法を習得すること。仏教文献は様々な言語で書かれていることから基本的言語の習得の上に研究テーマを設定し、論文を書けるようになることが目標である。
授業計画	最初に研究テーマの設定に関して討論を重ね、具体案作成へ向けて、いくつかのレポートを作成していく。次いで受講生は、先行研究論文を読破し、先行研究の問題点についてレポートの提出が求められる。このレポートを基に新たな観点や新知見の可能性について論議検討し、研究テーマの絞り込みに努める。夏学期：①研究論文の書き方。②研究の方法論。③研究資料の探索方法。④外国語文献の探索方法。⑤研究テーマの選定。⑥複数の研究テーマ。⑦研究テーマのデッサン。⑧研究チャートの作成。⑨研究文献のフィールドワーク。⑩研究テーマ討論。⑪研究テーマ変更の方法。⑫研究会の案内。⑬学会の案内。⑭発表の方法。⑮発表。討論。冬学期：①発表と討論の方法。②討論の文句。③先行研究の徹底的解読。④外国語先行研究の解読方法。⑤当該研究者の見つけ方。⑥文字資料の扱い方。⑦活字本と刊本。⑧刊本と写本。⑨写本の読解方法。⑩写本の所在。⑪写本の探索方法。⑫写本に関する書誌学的知識。⑬文献学。⑭文献学の確立。⑮発表と討論
授業の方法	受講生の研究してきたレポートについて適宜問題点を指摘し、レヴェルアップを図る。また重要資料を図書館その他から取り寄せ、その解読を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に４時間をかけること。
テキスト	研究テーマが定まり次第テキストや先行研究論文の集成の指導を行う。
参考文献	研究テーマ決定に従って参考文献を探索する。参考文献の探し方についても指導を行う。
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況如何では適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４００８
科目名・単位数	論文指導　　４単位
科目ナンバリング	2-12（3-5）
時限	火曜日　４時限目
担当教員氏名	斉藤　　明　特任教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆に際してのテーマの設定、研究に必要な資料や参考文献の収集、適切な研究方法などを指導する。
到達目標	学位論文に関する毎回の報告と指導を踏まえ、関連する学術論文の作成方法を学んだ上で、学位論文の完成を目ざす。
授業計画	夏学期 1 導入と解説（論文とは何か：目的、方法等） 2 論文のルール 3 学位論文のテーマ設定をめぐって 4-15 報告と議論、および指導 冬学期 1 進行状況の報告と展望 2-15 報告と議論、および指導
授業の方法	学生が用意してきたレポートや研究の部分的な成果をもとに、コメントと質疑応答、ならびに討論を交えながら授業を進める。
教員から学生へのフィードバック方法	個別に対面で、あるいはメールでコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点により、通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には５時間、復習には１時間の時間をかけること。
テキスト	必要に応じて授業の中で指示する。
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	論文の完成に向けた地道な取り組みが期待される。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４００９
科目名・単位数	論文指導　　４単位
科目ナンバリング	2-12（3-5）
時限	木曜日　５時限目
担当教員氏名	池　麗梅　教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に向けて、研究テーマ、問題の設定、論文の構成、研究の方法、必要な文献、原典の翻訳・解釈などにわたって、個別に指導する。
到達目標	合理的な研究計画に従って、研究の方法を習得しながら、学位論文の完成を目指す。
授業計画	研究テーマによって、個別に協議検討した上で決定する。
授業の方法	論文執筆者が準備段階ごとに提示する研究成果（問題意識も含めて）をもとに、コメント、討論、または助言などを行う。
教員から学生へのフィードバック方法	個別に対面で、あるいはメールでコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に 4 時間をかけること。
履修上の注意	合理的な研究計画の立案と、研究遂行に向けた地道な取り組みが望まれる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４０１０
科目名・単位数	論文指導　　４単位
科目ナンバリング	2-12（3-5）
時限	水曜日　５時限目　金曜日　５時限目
担当教員氏名	デレアヌ　フロリン　教授
授業の目的・概要	**PhD tutorials** are designed to help doctoral students to prepare and write their theses. Apart from reading and analysing primary and secondary sources, students are required to submit papers reflecting the progress of their work three times per semester. We shall also explore together specific problems and methodological strategies.
到達目標	Each semester must be a clear step in the process of writing the MA and/or PhD thesis.
授業計画	To be decided with each individual student
授業の方法	We shall combine presentations done by the students with critical analysis and reading together difficult passages.
教員から学生へのフィードバック方法	-- 口頭による分析 -- メール等による分析（特に資料の紹介や文献分析の場合）
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：２時間 復習：２時間 授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。
テキスト	To be decided with each student
参考文献	To be decided with each student
履修上の注意	The MA thesis should be a solid study (together with an edition and translation of relevant passages), clearly argued and showing familiarity with the research topic. The PhD thesis must be an original contribution to a particular subject in Buddhist studies based upon meticulous philological and historical work. （止むを得ない状況や論文進捗の必要応じて、オンライン授業を行うことがあります。）
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４０１１
科目名・単位数	論文指導　　４単位
科目ナンバリング	2-12（3-5）
時限	木曜日　４時限目
担当教員氏名	幅田　裕美　教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に必要な方法を習得することを目的とする。テーマの設定、研究史の把握、必要な文献の選択、文献解読の方法、写本読解の方法、批判テキストの分析方法などを指導する。
到達目標	仏教研究に必要な基礎能力を身につけ、学位論文を完成することを目標とする。
授業計画	受講生の学問的関心と研究テーマにそって、個別に相談し、決定する。
授業の方法	受講生の関心と研究テーマについて議論し、その研究テーマにふさわしい文献を選択する。研究テーマと文献に関する研究史を調査し、論文の内容と構成を決定する。論文の進捗段階に合わせて、論文原稿を議論する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、論文原稿等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	論文の構想をまとめ、文献資料を調査し、論文原稿を準備すること。授業でのコメントや議論を参考に論文原稿を訂正すること。予習、復習に４時間をかけること。
テキスト	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要なテキストを用いる。
参考文献	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要な文献を用いる。
履修上の注意	積極的な問題意識を持って、論文の完成に向けて地道に取り組むことが望まれます。 コロナウイルス感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４０１２
科目名・単位数	論文指導　　４単位
科目ナンバリング	2-12（3-5）
時限	火曜日　４時限目
担当教員氏名	藤井　教公　教授
授業の目的・概要	学位論文執筆のためのテーマの選択から、執筆完成に至るまでの全過程における事柄について指導し、教授する。論文テーマの選定、先行業績の調査、文献資料の渉猟と蒐集の方法、選定資料の読み込み、執筆内容の吟味などについて、受講者のそれぞれのテーマ、それぞれの段階に応じて指示し、論文の完成を目指す。
到達目標	受講者それぞれの修士論文、博士論文の完成を目指す。
授業計画	第 1～5 講　テーマの選択・設定に関する指導 第 6～9 講　テーマに関わる先行業績文献資料の読み込み 第 10 講以降　執筆内容の吟味と指導
授業の方法	授業日、授業時間はあらかじめ設定されてはいるものの、受講者との話し合いにより、双方の都合で決定する。そのためあらかじめの打ち合わせが必要である。また、コロナウイルス感染状況に応じて、対面式授業からオンライン方式に切り替えることもありうる。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（出席率を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に 4 時間をかけること
テキスト	論文執筆者が選択し、提示する。
参考文献	教場でテキストの内容ごとにその都度指示する。
履修上の注意	出席励行のこと。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４０１３
科目名・単位数	仏教文献学方法論　　４単位
科目ナンバリング	3-4（1-2）
時限	火曜日　４時限目
担当教員氏名	落合　俊典　教授
授業題目	日本古写経『馬鳴菩薩伝』の研究
授業の目的・概要	鳩摩羅什訳とされる『馬鳴菩薩伝』は、『大乗起信論』の著者が馬鳴菩薩か否かを巡って論争が繰り広げられた間には大いに参照されたが、不思議なことに根本的な問題に言及する論攷は現れず、ついに論争は下火になり、本書そのものを研究する論文は見られなくなった。日本古写経に共通して見られる『馬鳴菩薩伝』は大正蔵本（高麗版・宋版等）と全く異なるテキストを有している。果たしてどちらが正統か検証する。
到達目標	仏典はインド文化圏で成立し、文書化（サンスクリット語）された経律論の三蔵が、後漢以降に順次漢訳されていった。『馬鳴菩薩伝』は羅什訳とされているが、頼るべき僧祐（445～518）『出三蔵記集』には著録されず、『歴代三宝紀』（597 年）になってはじめて「鳩摩羅什訳」として登場した。 しかし、その本文は換骨奪胎され高麗版や宋版などには全く別のテキストが採用されるに至った。その経過をトレースすることはとりもなおさず仏教テキストの成立を探る方法論に他ならない。これらを確実に知識として吸収することが到達目標である。
授業計画	夏学期 ①概説１：経録の歴史。②概説２：経録と羅什訳。③大正蔵本『馬鳴菩薩伝』。④大正蔵本の底本。⑤大蔵経各版概説１。⑥同２．⑦同３．⑧同４．⑨同５．⑩日本古写経の特質１。⑪同２．⑫同３．⑬七寺一切経の『馬鳴菩薩伝』。⑭同１．⑮同２． 冬学期 ①夏学期の続き。七寺一切経の『馬鳴菩薩伝』３．②同４．③同 5．④同 6．⑤同 7．⑥同 8．⑦興聖寺一切経の『馬鳴菩薩伝』１．⑧同２．⑨同３．⑩その他の日本古写経。⑪二種の『馬鳴菩薩伝』１．⑫同２．⑬同３．⑭同４．⑮まとめ。
授業の方法	テキストを事前に予習し、訳注を行い発表する。毎回課題を出しその準備を大正蔵本、高麗再雕本、南宋思渓蔵本、福州版等複写し文字の異同をチェックしていく。さらに日本古写経の諸本の影印を日本古写経データベースからプリントし比較検討する。これらは準備段階であるが、授業ではそれらの解説を振り当てられた担当者が発表していく形式となる。
教員から学生へのフィードバック方法	担当箇所の発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には文献資料の読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して翻刻・訓読・訳注を完成させる。それに要する時間は 2 時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。２時間以上復習に当てる。
テキスト	日本古写経『馬鳴菩薩伝』（画像プリント）を配布する。
参考文献	落合俊典「二種の馬鳴菩薩伝―その成立と流伝―」（『七寺古逸経典研究叢書』第５巻。大東出版社。2000 年） 落合俊典・齊藤隆信「『馬鳴菩薩伝』影印・翻刻・訓読・解題」（同上） *Conceiving the Indian Buddhist Patriarchs in China*. By Stuart Young. Kuroda Institute Studies in East Asian Buddhism, no. 24. Honolulu: University of Hawai'i Press, 2015.
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。 コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況如何では適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４０１４
科目名・単位数	仏教文化学方法論　　４単位
科目ナンバリング	4-4（1-2）
時限	集中講義（夏・冬学期）　※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	宮本　久義　講師（元東洋大学　教授）
授業題目	道をめぐるインド文化論
授業の目的・概要	人はなぜ移動するのかという問題は、人間の歴史的・文化的営為を読み解くための重要なポイントであり、道はそのキーワードのひとつであると考えられる。道は、民族移動の道、交易の道、巡礼や求法の道、文化伝播の道、民族独立の道などさまざまな要素を持っている。いろいろな地図を見ながら、そこにあらわれるさまざまな歴史と文化の問題を一緒に考えていきたい。 釈尊ブッダの求道と伝道の道や、法顕・玄奘・義浄など求法僧の辿った道を手始めに、スリランカや東南アジア、中国、日本への仏教の伝播などを概説する。また、仏教の八大霊場と比較する意味で、ヒンドゥー教の聖地の分類やその特徴を考察しつつ、仏教とヒンドゥー教の複合的聖地であるカイラーサやヴァーラーナスィーなどの現在の聖地信仰の実態にも触れる。さらに、イブン・バットゥータの『三大陸周遊記』やマルコ・ポーロの『東方見聞録』、鄭和の西洋下りの記録『瀛涯勝覧』などを資料として、イスラーム世界やキリスト教世界、中国世界とインドの繋がりにも触れる予定である。
到達目標	インドを中心とする南アジアを対象として道の文化史を考えるとき、そこにはその地域的特殊性とともに、全世界に共通する普遍性も浮かび上がってくるであろう。それらを理解し、地理・歴史と文化・思想が緊密に結びつく様相を分析・考察できるようになることを目標としたい。
授業計画	夏学期 第 1 回：南アジアのトポロジー 第 2 回：先史以来の道の動態・古代インドの道 第 3 回：ブッダの求道と伝道の道 第 4 回：仏教の八大霊場 第 5 回：『法顕伝』とその関連資料 第 6 回：法顕の求法の旅の目的とたどった道 第 7 回：『南海寄帰内法伝』とその関連資料 第 8 回：義浄の求法の旅の目的とたどった道 第 9 回：『大唐西域記』とその関連資料 第 10 回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(1) 第 11 回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(2) 第 12 回：『大唐西域記』における地名同定の問題点 第 13 回：『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(1) 第 14 回：『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(2) 第 15 回：日本における聖地巡礼 冬学期 第 1 回：ヒンドゥー教の宗教思想 第 2 回：ヒンドゥー教の聖地 第 3 回：プラーナ聖典における「マーハートミヤ」 第 4 回：ブッダガヤーとガヤー 第 5 回：ヴァーラーナスィーとサールナート(1) 第 6 回：ヴァーラーナスィーとサールナート(2) 第 7 回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(1) 第 8 回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(2) 第 9 回：中世インドを旅した人々 第 10 回：イスラームの来た道 第 11 回：イブン・バットゥータの『三大陸周遊記』 第 12 回：マルコ・ポーロの『東方見聞録』 第 13 回：キリスト教の来た道 第 14 回：フランシスコ・ザビエルの伝道 第 15 回：総括
授業の方法	こちらで用意した配布資料をもとに講義を進めていく。漢文やサンスクリットの原典を使用するときには、できるだけわかりやすく解説する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする。また必要があれば、メールでコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習・復習ともに 120 分程度の時間をかけてほしい。

テキスト	教場にて（オンライン授業の場合は添付ファイルで）資料を配布する。
参考文献	小西正捷・宮本久義編『インド・道の文化誌』春秋社、1995 年 水谷真成訳『大唐西域記』平凡社、1972 年 義浄撰、宮林昭彦・加藤栄司訳『南海寄帰内法伝』法藏館、2004 年 長沢和俊訳註『法顕伝・宋雲行紀』平凡社、1975 年 馬歓著、小川博訳注『瀛涯勝覧』吉川弘文館、1969 年 その他、講義中に適宜教示する。
履修上の注意	講義中は常にインドの地図を参照し、インドの地理と文化が徹底的に頭に入るように努力していただきたい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４０１５
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学研究　　４単位
科目ナンバリング	7A1-8（1-3）
時限	月曜日　３時限目
担当教員氏名	デレアヌ　フロリン　教授
授業題目	Emptiness and compassion in the *Vimalakīrtinirdeśa*　『維摩經』に於ける空と慈悲
授業の目的・概要	● We shall read and discuss key passages from the *Vimalakīrtinirdeśa*, an early Mahāyāna scripture which has left a major imprint on the history of Buddhist thought and spirituality. Doctrinally, the text is closely connected to the Prajñāpāramitā literature displaying original developments in its treatment of the *śūnyatā* concept and the place of the lay followers in the new movement. ● After an overview of the philological, historical, and philosophical background of the text, we shall read and translate passages from the Sanskrit original and compare it to the Tibetan and Chinese versions as well as to modern renderings into Japanese, English, etc.
到達目標	● Understand the peculiarities and place of the *Vimalakīrtinirdeśa* in the larger context of Mahāyāna literature. ● Gain detailed knowledge of the basic tenets and their historical background. ● Hone philological skills (editing, translating, annotating) necessary to work with primary sources. ● Improve knowledge of Sanskrit, Classical Tibetan, Classical Chinese, and Classical Japanese (*kundoku* style).
授業計画	Summer Semester 夏学期 (1) Overall aim and methodology (2) Introduction to the *Vimalakīrtinirdeśa*: Primary sources, modern translations, and secondary literature (3) Introduction to the *Vimalakīrtinirdeśa*: Formation, historical background, and key doctrines and practices (4)-(9) Readings: *Vimalakīrtinirdeśa* (Taisho Study Group ed. pp. 82-87 and corresponding Tibetan and Chinese [Zhiqian, Kumārajīva, Xuanzang] translations) (10)-(14) Readings: *Vimalakīrtinirdeśa* (Taisho Study Group ed. pp. 88-97) and corresponding Tibetan and Chinese translations) (15) Students' presentations Winter Semester 冬学期 (1)-(8) Readings: *Vimalakīrtinirdeśa* (Taisho Study Group ed. pp. 116-122 and corresponding Tibetan and Chinese translations) (9)-(14) Readings: *Vimalakīrtinirdeśa* (Taisho Study Group ed. pp. 188-209 and corresponding Tibetan and Chinese translations) (15) Students' presentations
授業の方法	In classes (1) to (3) in the Summer Semester, I shall give lectures on the subjects mentioned above. The last class of each semester is reserved for students' presentations. For the rest of the classes, students are expected to prepare in advance the materials scheduled to be read and analysed.
教員から学生へのフィードバック方法	-- 口頭による分析 -- メール等による分析（特に資料の紹介や文献分析の場合）
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：２時間 復習：２時間 授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。
テキスト	Study Group on Buddhist Sanskrit Literature (Taisho University) ed. *Vimalakīrtinirdeśa, Transliterated Sanskrit Text Collated with Tibetan and Chinese translations* 梵蔵漢対照『維摩經』
参考文献	植木雅俊訳『梵蔵漢対照・現代語訳　維摩經』（岩波書店、2011 年） 植木雅俊『梵文『維摩經』翻訳語彙典』（法藏館、2019 年） 高橋尚夫『維摩経ノート』（ノンブル社、2017 年） Luis Gomez and Paul Harrison transl. *The Teaching of Vimalakīrti* (Berkeley: Mangalam Press, 2022) Étienne Lamotte transl. *The Teaching of Vimalakīrti (Vimalakīrtinirdeśa)* (Rendered into English by Sara Boin) (Oxford: Pali Text Society, 1994) Robert A.F. Thurman transl. *The Holy Teaching of Vimalakīrti: A Mahāyāna Scripture* (Delhi: Motilal Banarsidass Publishers, 1991 [1976])

履修上の注意	The participants must have basic knowledge of English, Sanskrit, and Classical Chinese (as well as preferably Classical Tibetan). （止むを得ない状況により、オンライン授業を行うことがあります。）
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２４０１６
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習　　４単位
科目ナンバリング	7A2-8（1-3）
時限	月曜日　５時限目
担当教員氏名	デレアヌ　フロリン　教授
授業題目	The path of spiritual cultivation in the *Śrāvakabhūmi* Book of the *Yogācārabhūmi* 『瑜伽師地論・聲聞地』に於ける修行道論
授業の目的・概要	We shall read passages from the *Śrāvakabhūmi*, a key text in the history of the earliest Yogācāra tradition. The *Śrāvakabhūmi* gives an ample presentation of the meditative practices and theories of the Śrāvakayāna contemplatives (mostly related to the Sarvāstivāda school). In spite of its content and origins, the *Śrāvakabhūmi* was included into the *Yogācārabhūmi*, one of the foundational treatises of the Yogācāra-Vijñānavāda school and contributed to the formation of its system of spiritual cultivation.
到達目標	● Deepen knowledge of Buddhist philology and canonical languages ● Build up the skills necessary for critical editions and annotated translations (deciphering the MS and collating Skt. Tib. and Ch.). ● Deepen the understanding of the Buddhist teachings and practices in their historical development.
授業計画	Summer Semester 夏学期 (1) The *yogācāra* tradition and the formation of the Yogācāra school (2) Introduction to the *Śrāvakabhūmi*: Sanskrit manuscript, Indic script, editions of primary sources, translations, and secondary literature. (3) Introduction to the *Śrāvakabhūmi*: formation, historical background, and key doctrines and practices (4)-(9) Readings from the *Śrāvakabhūmi* (Shukla ed. p. 68, l.1~p. 70.2) (10)-(14) Readings from the *Śrāvakabhūmi* (Shukla ed. 70.3-73.18) (15) Students' presentations Winter Semester 冬学期 (1)-(7) Readings from the *Śrāvakabhūmi* (Shukla ed. 73.19-79.15) (8)-(14) Readings from the *Śrāvakabhūmi* (Shukla ed. 79.16-86.10) (15) Students' presentations
授業の方法	● The first three classes of the Summer Semester are dedicated to introductory lectures on the subjects mentioned above. ● The last class or each semester is reserved for students' presentations. ● For the rest of the classes, students are expected to prepare in advance the materials scheduled to be read and analysed. We shall read the text in Sanskrit and Classical Chinese comparing it with the Tibetan translation whenever necessary. Attention will also be paid the doctrinal content, tracing various ideas and practices to their canonical roots and Abhidharmic developments and discussing their influence on later Buddhist texts.
教員から学生へのフィードバック方法	-- 口頭による分析 -- メール等による分析（特に資料の紹介や文献分析の場合）
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：２時間 復習：２時間 授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。
テキスト	
参考文献	
履修上の注意	The participants must have good knowledge of Sanskrit and Classical Chinese. Knowledge of Classical Tibetan and Classical Japanese (*kundoku* style) will also come in handy, as we shall also consult translations in these classical languages. Last but not least, basic knowledge of English is also important. （止むを得ない状況により、オンライン授業を行うことがあります。）
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２４０１７
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究　　４単位
科目ナンバリング	7B1-8（1-3）
時限	金曜日　２時限目
担当教員氏名	斉藤　　明　特任教授
授業題目	インド大乗仏教思想史研究
授業の目的・概要	周知のように、非有非無や不苦不楽の中道説は、仏教思想の基本的な立場を表明する。＜縁起＞を根拠にしたこの中道説は、2~3 世紀のナーガールジュナ（龍樹）によってその意義が再認識され、『中論』を起点とする「中観」思想をもたらすことになる。4~6 世紀には大乗仏教を代表する部派となった瑜伽行・唯識学派と、6 世紀以降のインド仏教史に多大な影響力をもった中観学派の両学派が、一面では、中道の本家争いともいえる活発な論議を展開した。この授業では、昨年度に引きつづき、瑜伽行派の思想を基礎づけたヴァスバンドゥ（世親 400-480 頃）作『唯識三十頌』およびスティラマティ（安慧 510-570 頃）の注釈にみる唯識説とその関連思想を、テキストを精読しながら講義する。
到達目標	インド大乗仏教思想史を適確に理解することを目ざす。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2 ＜中道＞理解をめぐる瑜伽行・唯識派と中観派 3-15『唯識三十頌釈』*Triṃśikāvijñaptibhāṣya* 講読 冬学期 1-15 『唯識三十頌釈』*Triṃśikāvijñaptibhāṣya* 講読
授業の方法	講義と関連テキストの講読を中心とし、必要に応じて関連資料（写本コピー等）を配布して利用する。積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭で質疑応答を行うとともに、コメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点およびレポートにより、通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には３時間、復習には１時間の時間をかけること。
テキスト	H. Buescher, *Sthiramati's Triṃśikāvijñaptibhāṣya.* ÖSW 768, 2007. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	梶山雄一他「唯識三十論」『世親論集』（大乗仏典 15）中央公論社,1976. 桂紹隆他編『唯識と瑜伽行』（シリーズ大乗仏教 7）春秋社, 2012. 斎藤明他編『空と中観』（シリーズ大乗仏教 6）春秋社, 2012. その他は、授業の中で随時紹介する。
履修上の注意	丹念な予習・復習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２４０１８
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究　　４単位
科目ナンバリング	7B1-8（1-3）
時限	金曜日　３時限目
担当教員氏名	幅田　裕美　教授
授業題目	原始仏教・初期仏教における修道論
授業の目的・概要	原始仏教あるいは初期仏教と称される仏教の思想を概観し、仏教の教理の基礎を理解する。
到達目標	仏典の言語の性格を把握し、文献分析の基礎的方法を理解し、的確な内容分析能力を習得する。
授業計画	夏学期 第 1 回　概説 第 2 回　仏典の言語 第 3–5 回　修行の階位の成立 第 6–8 回　在家者と出家者 第 9–11 回　禅定の体系化 第 12–15 回　生死の克服 冬学期 第 1–3 回　信の様相 第 4–6 回　原始仏教の倫理的性格 第 7–9 回　倫理成立の基礎 第 10–12 回　社会倫理の基本思想 第 13–15 回　倫理的実践の規範
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、質問や疑問を出し合って、テーマについての議論を深める。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に 4 時間をかけること
テキスト	授業の中で紹介する。
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	授業に積極的に参加し、十分な学術知識の習得に努めることが望まれます。コロナウイルス感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２４０１９
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習　　４単位
科目ナンバリング	7B2-8（1-3）
時限	水曜日　２時限目
担当教員氏名	斉藤　　明　特任教授
授業題目	インド仏教思想関連文献講読
授業の目的・概要	インド仏教思想史上の主要なテキストを講読する。今年度は、昨年度に引き続き、中観学派を確立したバーヴィヴェーカの主著『中観心論』*Madhyamakahṛdayakārikā* の中の第 4「声聞の真実確定［説］への［批判的］入門」章を、注釈『論理炎論』*Tarkajvālā* とともに講読する。同章は著者が展開する大乗仏説論、および注釈において詳説される部派分裂史に関する資料としても貴重である。同章の内容と背景を分析・解説しながら、丹念に読み進める。サンスクリット語文法に関する基礎知識が望まれる。
到達目標	サンスクリット語で著された仏教論書の読解力を身につけるとともに、適確な内容理解を目ざす。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2-15『中観心論』*Madhyamakahṛdayakārikā* および注釈『論理炎論』*Tarkajvālā* 第 4 章講読 冬学期 1 導入と解説 2-14『中観心論』*Madhyamakahṛdayakārikā* および注釈『論理炎論』*Tarkajvālā* 第 4 章講読 15 総括
授業の方法	演習形式を基本とし、それぞれの文献の内容および研究史に関する解説を交える。授業では、テキストの読解ならびに内容に関する積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭で質疑応答を行うとともに、コメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点およびレポートにより、通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には４時間、復習には１時間の時間をかけること。
テキスト	M. D. Eckel, *Bhāviveka and His Buddhist Opponents*, Harvard Oriental Series 70, 2008. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	斎藤明「中観思想の成立と展開」『空と中観』（シリーズ大乗仏教６）春秋社, 2012, pp. 3-41. その他は、授業の中で随時紹介する。.
履修上の注意	地道な予習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２４０２０
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習　　４単位
科目ナンバリング	7B2-8（1-3）
時限	木曜日　２時限目
担当教員氏名	幅田　裕美　教授
授業題目	Kalpanāmaṇḍitikā 講読
授業の目的・概要	Kumāralāta 作 Kalpanāmaṇḍitikā を対応する漢訳およびチベット語訳と対照して読み、初期サンスクリット仏教文学の伝承を理解する。
到達目標	サンスクリット語の読解力をつけ、諸資料を読解分析する能力を身につけることを目的とする。
授業計画	2023 年度は Aśokāvadāna に対応する説話を中心に講読したが、2024 年度は他の説話を読む。 夏学期 第 1 回　Kalpanāmaṇḍitikā 文献概説 第 2 回　ブラーフミー写本読解の基礎 第 3–15 回　Kalpanāmaṇḍitikā 講読 冬学期 第 1–15 回　Kalpanāmaṇḍitikā 講読
授業の方法	テキストを講読し、漢訳およびチベット語訳との対応を分析し、問題点を議論する。サンスクリット写本断片を適宜参照する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に 4 時間をかけること。
テキスト	Lüders, Heinrich: Bruchstücke der Kalpanāmaṇḍitikā des Kumāralāta. (Kleinere Sanskrit-Texte II). Leipzig: Deutsche Morgenländische Gesellschaft, 1926. Hahn, Michael 1982: Kumāralātas Kalpanāmaṇḍitikā Dṛṣṭāntapaṅkti Nr. 1 Die Vorzüglichkeit des Buddha. in: Zentralasiatische Studien 16. 1982, pp. 309–336.
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	丹念な予習と復習が望まれます。 コロナウイルス感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２４０２１
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究　　４単位
科目ナンバリング	7C1-8（1-3）
時限	火曜日　５時限目
担当教員氏名	落合　俊典　教授
授業題目	中世園城寺聖教文献の研究（１）―『法門名義抄』を主として―
授業の目的・概要	中世天台の寺門（園城寺、三井寺）の聖教は相次ぐ山門との抗争による出火で多数の典籍が灰燼に帰した。しかし、大阪府河内長野市の天野山金剛寺（真言宗御室派）には寺門の聖教が数多く現存する。その中に『法門名義抄』（仮題）の断簡が３点存するが、今次は金剛寺聖教 10-1 の『法門名義抄』（仮題）を取り扱い、園城寺の法門であることを立証し、併せて翻刻・訳注を行い、その意義について論じ、中世天台研究の一助としたい。
到達目標	金剛寺聖教 10-1『法門名義抄』は園城寺（寺門）が編纂した法門の名義を集成した書であることをどのようにして立証するかが一つの到達目標であり、二つ目には正確な翻刻と訳注を完成させることである。
授業計画	夏学期：①天野山金剛寺の歴史。②金剛寺一切経。③金剛寺聖教。④園城寺（三井寺、寺門）の歴史。⑤金剛寺聖教 10-1 文献紹介。⑥中世聖教文献の取り扱い。⑦聖教の特徴。⑧楮紙・粘葉装。⑨各自分担を決定し輪読を行う。輪読１．⑩輪読２．⑪輪読３．⑫輪読４．⑬輪読５．⑭輪読６．⑮夏学期総括。 冬学期：①輪読７．②輪読８．③輪読９．④輪読１０．⑤輪読１１．⑥輪読１２．⑦輪読１３．⑧輪読１４．⑨輪読１５．⑩翻刻終了後に天台教学史上における本書の位置について考察。⑪同考察２．⑫同考察３．⑬同考察４．⑭同考察５．⑮まとめ。
授業の方法	受講生が担当した翻刻・訓読・訳注のレポートについて適宜問題点を指摘し、レヴェルアップを図る。また関連資料を図書館その他から取り寄せ、その解読を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。
教員から学生へのフィードバック方法	受講生の担当箇所の発表後に整理した翻刻・訓読・訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって翻刻・訓読・訳注が合格点に達成することを期す。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には文献資料の読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して翻刻・訓読・訳注を完成させる。それに要する時間は 2 時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。２時間以上復習に当てる。
テキスト	金剛寺聖教 10-1。画像のプリントを配布する。
参考文献	『金剛寺一切経の総合的研究と金剛寺聖教の基礎的研究』（科研基盤研究(A)15202002. 2003 年～2006 年）報告書。 『天野山金剛寺善本叢刊』3 巻(勉誠出版。平成 30 年)。 『園城寺の研究』天台宗寺門派御遠忌事務局編。昭和 6 年。 『智證大師研究』上中下 3 巻（復刊。同朋舎。1978 年）。 渋谷亮泰編『昭和現存天台書籍綜合目録』（法蔵館。平成 5 年）。
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。 コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４０２２
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究　　４単位
科目ナンバリング	7C1-8（1-3）
時限	金曜日　３時限目
担当教員氏名	池　　麗梅　教授
授業題目	漢文大蔵経史研究―10～14 世紀
授業の目的・概要	東アジア仏教にとって、漢文大蔵経を中心とする漢文仏教典籍はその思想文化の源流であり、また常に思想・信仰上の拠りどころ、基盤であり続けてきた。この授業では、漢文大蔵経の歴史を俯瞰した上で、特に 10 から 14 世紀にかけて現れた刊本大蔵経を中心に、それらの成立・変遷や、周辺諸国への伝播と後世への影響などについて、体系的に解説する。
到達目標	10～14 世紀の漢文大蔵経史を俯瞰的に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 第 1-3 回　漢文大蔵経史の概説 第 4-8 回　刊本大蔵経の研究史 第 9-13 回　福州版大蔵経の雕造史 第 14-15 回 ディスカッション・総括 冬学期 第 1 回　　復習と概説 第 4-8 回　東禅寺版大蔵経研究の展開 第 9-13 回　開元版大蔵経研究の展望 第 14-15 回 ディスカッション・総括
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、必要に応じて参考資料も配布する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に 4 時間をかけること。
テキスト	野沢佳美『印刷漢文大蔵経の歴史―中国・高麗篇』、東京：立正大学情報メディアセンター、2015 年。
参考文献	李富華・何梅『漢文仏教大蔵経研究』、北京：宗教文化出版社、2003 年。 李際寧『仏経版本』（中国版本文化叢書）、南京：江蘇古籍出版社、2002 年。 京都仏教各宗学校連合会編『新編大蔵経―成立と変遷』、京都：法蔵館、2021 年。
履修上の注意	予習・復習と、積極的な授業参加が望まれる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４０２３
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究　　４単位
科目ナンバリング	7C1-8（1-3）
時限	木曜日　３時限目
担当教員氏名	藤井　教公　教授
授業題目	日蓮『開目鈔』講読 2024
授業の目的・概要	『開目鈔』は日蓮の主著の一つで、佐渡流罪のさなかに、『法華経』の行者としての確乎とした自覚と、末法における『法華経』流布を宣言した書で、本書を講読することによって日蓮の思想形成の後を辿ることを目的とする。今年度は昨年度の続きから講読。
到達目標	テキストを正確に読み取り、その内容の理解に努める。
授業計画	前期 15 週で昭和定本の 552～581 頁を目処に、後期授業で 582～609 頁の最後まで読了したい。
授業の方法	担当者を決めて、テキストを最初から読んでいく。参考書も利用しながら文意の把握に努める。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に 4 時間をかけること
テキスト	教場にてその都度指示する。
参考文献	教場にてその都度指示する。
履修上の注意	予習のうえ、出席励行のこと。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２４０２４
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習　　４単位
科目ナンバリング	7C2-8（1-3）
時限	木曜日　３時限目
担当教員氏名	落合　俊典　教授
授業題目	五島美術館蔵『注金剛般若波羅蜜経』と地婆訶羅訳『金剛般若波羅蜜経破取著不壊仮名論』
授業の目的・概要	平安初期書写と想定される五島美術館蔵の『注金剛般若波羅蜜経』は近年注目された文献資料である。かつて川瀬一馬博士が本資料を調査されたが書写年代についての考察に止まり、成立年代や著者等についての考察は行われていなかった。筆者と青木佳伶氏の調査で詳細な法量が分かり、本文の研究に着手したが全容の解明にまでは至っていない。今までの取り組みでは永淳二年（683）に地婆訶羅が訳した『金剛般若波羅蜜経破取著不壊仮名論』（以下『不壊仮名論』）と密接な関係があると分かってきた。この翻訳は宇井伯壽博士が研究と訓読をされている（『大乗仏典の研究』岩波書店）。それに依れば著者は明らかにインド仏教中観派の学匠（功徳施 Guṇadatta, Śrīdatta）であるという。この功徳施なる人物は玄奘と義浄のナーランダ寺院滞在の狭間に活躍したようであり、義浄の報告の中に人名を記していない中観派の学匠ではないかと論証されている。 もしこの説が正しいとすると地婆訶羅訳『不壊仮名論』は当時におけるインド中観仏教の論書の翻訳であるとなるが、五島美術館蔵の『注金剛般若波羅蜜経』はその影響下に生まれた研究書となる。本演習では新出文献の解読作業がどのように行われるのか解説するとともに未解読箇所の解明に参加者はチャレンジして欲しい。
到達目標	新出の文献を解読する作業には広範囲な知識と方法論が求められる。文献資料の書写年代に始まり、文献そのものの成立年代そして著者を探り確定していかなければならない。書写年代に関しては紙質・墨・法量・書法等の分野から考究し、偽写本の可能性を否定し、古代もしくは中世の文献と想定される段階まで必要である。次に文献資料を読み始めていく上で異体字・書写文字を現行の文字に比定し翻刻を行う。作業としては第一段階で全文の翻刻を行う。難読・未詳文字などは取り敢えず■等の記号で処理し進める。初期の全文翻刻のデータを利用して次に未解読文字の前後を比較して一字一字少しでも確定していく。
授業計画	夏学期①概説１：『金剛般若経』釈論の研究史。②同概説２。③地婆訶羅訳『金剛般若波羅蜜経破取著不壊仮名論』１．④同２．⑤同３．⑥同４．⑦同５．⑧七～八世紀インド中観派の動向。⑨同２．⑩同３．⑪五島美術館蔵『注金剛般若波羅蜜経』の書写年代．⑫同本の成立．⑬同本の著者。⑭同本の翻刻．⑮翻刻２． 冬学期①夏学期の続き。五島美術館蔵『注金剛般若波羅蜜経』の翻刻３．②同４．③同5．④同6．⑤同7．⑥同8．⑦『金剛般若波羅蜜経破取著不壊仮名論』と『注金剛般若波羅蜜経』比較対照研究．⑧同研究２．⑨同研究３．⑩同研究４．⑪同研究５．⑫同研究６．⑬同研究７．⑭同研究８．⑮まとめ。
授業の方法	受講生が担当した翻刻・訓読・訳注のレポートについて適宜問題点を指摘し、レヴェルアップを図る。また関連資料を図書館その他から取り寄せ、その解読を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。
教員から学生へのフィードバック方法	担当箇所の発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には文献資料の読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して翻刻・訓読・訳注を完成させる。それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。２時間以上復習に当てる。
テキスト	五島美術館蔵『注金剛般若波羅蜜経』を随時プリントする。ただ本プリントの扱いは細心の注意を要する。不用意に他人に見せたり複写させたりすることは慎むように。 大正蔵本地婆訶羅訳『金剛般若波羅蜜経破取著不壊仮名論』（各自コピーすること）
参考文献	宇井伯壽著『大乗仏典の研究』（岩波書店。1979年）。 梶芳光運著『金剛般若経』（仏典講座６．大蔵出版。1972年）.
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。 コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況如何では適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４０２５
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習　　４単位
科目ナンバリング	7C2-8（1-3）
時限	金曜日　４時限目
担当教員氏名	池　　麗梅　教授
授業題目	東アジア仏教文献講読
授業の目的・概要	東アジア仏教文献の代表的なテキストを順次取りあげていくが、今年度は『続高僧伝』（巻 27「遺身篇」）を講読する。『続高僧伝』は、中国中世の歴史・文化・思想にとどまらず、東アジア仏教文化史・文化交流史を研究する上で、不可欠な基礎的文献である。この授業は、日本古写経テキストを使用して、同書のテキスト変遷、僧伝成立の歴史的・思想的背景、戒律思想の展開などを総合的に検討することを目的とする。
到達目標	写本テキストの翻刻・校訂などの基礎訓練を行い、漢文の現代語訳に習熟し、テキスト内容を正確に理解した上で、的確な解釈もできるようになることを目標とする。
授業計画	夏学期 第 1-2 回　『続高僧伝』の概説 第 3-14 回　「釈僧崖伝」講読 第 15 回　ディスカッション・総括 冬学期 第 1-2 回　復習と概説 第 3-14 回　「釈大志伝」講読 第 15 回　ディスカッション・総括
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻刻・校訂・現代語訳するだけではなく、内容の分析、その背後にある思想的背景を併せて考察する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に４時間をかけること。
テキスト	金剛寺本・興聖寺本・七寺本『続高僧伝』（巻 27「遺身篇」）
参考文献	必要に応じて関連資料を配布して利用する。
履修上の注意	積極的な授業参加と活発な討論が期待される。担当者は発表原稿を人数分用意すること。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４０２６
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習　　４単位
科目ナンバリング	7C2-8（1-3）
時限	木曜日　４時限目
担当教員氏名	藤井　教公　教授
授業題目	『維摩経文疏』研究 2024
授業の目的・概要	本講は、天台智顗が晩年に晋王廣に献上するために著したとされる羅什訳『維摩経』の注釈書『維摩経文疏』を講読し、それによって智顗の教学思想を検討することを目的とする。本書は智顗の最晩年の思想を窺うことのできる重要な著作であるが、同じ智顗の『維摩経玄疏』や湛然『維摩経略疏』などに比べてこれまで余り顧みられておらず、国訳もまだない。したがってまず文献を正確に読み進めていくことが必要なので、国訳の訳注原稿を作成しながらその原稿の検討を行うことにしたい。
到達目標	テキストとその注釈書を読んで、漢文訓読に慣れて習熟するとともに、その内容を受講者自身の努力によって十分理解することを目標とする。
授業計画	初めに『維摩経文疏』についての概略を講義し、その後に受講者の原稿発表という形式で演習を行う。本年度は 第 1～2 講　『維摩経文疏』の解題。 第 3～15 講　テキスト巻 6 の途中（500a）から巻末(503c)まで。 第 16～30 講 巻 7（504a）から同巻末尾(511a)までを講読予定。
授業の方法	演習形式でテキストを講読する。ローテーションを決め、毎回の発表者は分担部分の原稿を作成し、教場でそれを発表する。発表原稿はその場で検討し、添削修正し、それを本講における受講者全員の共通理解とする。 コロナウイルス感染の状況によっては、授業の形態を対面式からオンライン方式に切り替える可能性もある。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に 4 時間をかけること
テキスト	教場でコピーを配布する。
参考文献	教場にて指示する。
履修上の注意	出席励行のこと。発表者は必ず原稿を用意し、受講者全員に配布すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４０２７
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習　　２単位
科目ナンバリング	7C2-8（1-3）
時限	火曜日　２時限目
担当教員氏名	王　　頌　客員教授（北京大学教授）
授業題目	魏晉南北朝佛教文獻選讀 (Selected readings of the Chinese Buddhist texts from the Wei, Jin, Southern and Northern Dynasties)
授業の目的・概要	This course will read some apologetical and doctrinal Buddhist texts from the Wei, Jin, Southern and Northern Dynasties. The purpose of the course is to guide students to understand the historical background of early Chinese Buddhism, the collision of Buddhism and traditional Chinese culture, and to train their ability to read ancient Chinese texts. In addition to the original texts selected from the *Hongming Collection* and the *Shishuo Xinyu*, we will also read relevant works by Chen Yinke, Tang Yongtong, Tang Zhangru, and others, to help students understand the methods and main issues from an academic perspective. The course will be taught in Chinese as well as Japanese and English.
到達目標	This course is intended to guide students to familiar with relevant literature, read ancient Buddhist literature in Chinese, and understand relevant classic research and the latest research trends.
授業計画	1-2 Introduction to the course 3-4 Reading in 郗超《奉法要》（附《晉書· 郗超傳》） 5-6 Reading in 孫綽《喻道論》 7-8 Reading in 僧肇《不真空論》 9-10 Reading in 慧皎《晉剡沃洲山支遁》支道林《大小品對比要鈔序》道安《安般注序》《陰持入經序》 11 Reading in 慧琳《白黑論》 12 Reading in 宗炳《答何衡陽書之一》宗炳《答何衡陽書之二》 13 Reading in 宗炳《明佛論》 14 Reading in 慧遠《三報論》《明報應論》 15 Reading in 慧皎《魏吳建業建初寺康僧會》慧皎《齊上定林寺釋法獻》
授業の方法	Primarily text reading and discussion, with some lecture
教員から学生へのフィードバック方法	Communication in person and by email
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて各学期で評価 [Based on class performance]
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	(a) Preparation: 120 min (b) Revision/review: 120 min 授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。
テキスト	1. 弘明集 2. 世說新語
参考文献	1. 陳寅恪《書世說新語文學類鐘會撰四本論始畢條後》 2. 陳寅恪《支敏度學說考》 3. 湯用彤《論格義》 4. 唐長孺《清談與清議》 5. 湯用彤《魏晉玄學流別略論》 6. 唐長孺《魏晉玄學之形成及其發展》 7. 陳寅恪《逍遙游向郭義與支遁義探源》 8. 陳垣《法獻佛牙隱現記》《佛牙故事》 9. 劉淑芬《中國歷史上的舍利信仰》 10. E. Zurcher: *The Buddhist Conquest of China*, Leiden: E. J. Brill, 1972. 11. Robert H. Sharf: *Coming to Terms with Chinese Buddhism*, Korada Institute, Studies in East Asian Buddhism 14, Honolulu: University of Hawaii Press, 2002 Further bibliography will be introduced in class.
履修上の注意	In order for the class to proceed smoothly, students must be prepared in each class to read as far as the teacher has assigned.
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４０２８
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と生命倫理）　　２単位
科目ナンバリング	5-2（1-3）
時限	集中講義（夏学期）　※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山　泰弘　講師（元埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教と生命倫理
授業の目的・概要	人工授精や臓器移植などの生命に関わる技術の進展が人間生活にもたらす意味について、仏教との関わりにおいて検討するのがこの授業の目的である。はじめに仏教倫理の特質について思想史的な観点から概観し、現代の倫理学の諸潮流との比較をおこなう。次いで現代の生命倫理をめぐる諸問題を検討しながら、仏教の生命観の理解を試みる。
到達目標	・生命倫理に関わる現実の諸問題が多岐にわたることと、それに対してさまざまな思想的アプローチが可能であることを理解する。 ・生命倫理の問題が仏教の中にどのように位置づけられるかについて、理解を深める。
授業計画	＜仏教倫理の位置と特徴＞ 1. 古代インドの共同体倫理と仏教倫理 2. 現代の倫理学と仏教倫理 3. 徳倫理と仏教 4. 無我・縁起説の倫理 5. 業・輪廻思想の倫理 6. 仏教の倫理徳目 ＜生命倫理と仏教＞ 7. 脳死 8. 臓器移植 9. 自殺の問題 10. 安楽死 11. 生殖補助医療技術 12. 受胎 13. 胎児 14. 社会倫理と仏教 15. 個人倫理と仏教
授業の方法	上記授業計画の内容に従って、関連資料を配付して概略を説明し、討論を行いながら、知識を深めていく。討論のなかで新しいテーマが出てきたときは、関連する資料を追加して次の回で扱う。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にコメントする。またはメールにて個別にコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて各学期で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には１時間、復習には３時間の時間をかけること。
テキスト	毎回資料を配布する。
参考文献	和辻哲郎『原始仏教の実践哲学』（和辻哲郎全集第５巻） Keown, Damien. : Buddhism and Bioethics. Palgrave 2001.
履修上の注意	特になし。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２４０２９
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と環境問題）　　２単位
科目ナンバリング	6-2（1-3）
時限	集中講義（夏学期）　※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山　泰弘　講師（元埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教と環境思想
授業の目的・概要	環境をめぐる諸問題について、仏教の視点から検討を加えることがこの授業の目的である。はじめに現代の環境問題を概観し、この問題の背景にある科学主義的な思考について、思想史的な立場から検討を行う。次いで仏教の多様な自然観とそれを支える価値意識について理解を試み、現代の環境倫理に対する仏教の貢献について考える。
到達目標	・環境問題に対してアプローチするときには、価値論的な視点が重要であることを理解する。 ・現代の環境倫理が提起する諸問題について、仏教独自の価値意識を考慮しながら理解を深める。
授業計画	＜環境問題と環境倫理＞ 1. 環境倫理の諸問題 2. 公害病 3. 地球環境問題 4. 放射能汚染 ＜科学技術の性格＞ 5. 科学と価値 6. 科学と技術 7. 科学技術の変貌 ＜仏教の自然倫理＞ 8. 自然観の諸相 9. 古代インドの自然観 10. 不殺生 11. 慈悲 12. 如実知見 13. 植物 14. 仏性 15. 環境倫理と仏教思想
授業の方法	授業は、上に述べた幾つかの大きなテーマに関連する資料を紹介してその概略を説明し、出席者の間で意見を交換しながらより個別のテーマに絞り込んで知識を深めるという方法をとる。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にコメントする。またはメールにて個別にコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて各学期で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には１時間、復習には３時間の時間をかけること。
テキスト	毎回資料を配布する。
参考文献	阪本（後藤）純子 『生命エネルギー循環の思想 ― 「輪廻と業」理論の起源と形成―』RINDAS 24, 2015年 原實「不殺生考」国際仏教学大学院大学研究紀要 1（1998）pp. 1-37. Schmithausen, Lambert : Buddhism and Nature, Studia Philologica Buddhica Occasional Paper Series VII, The International Institute for Buddhist Studies of the International College for Advanced Buddhist Studies, Tokyo, 2003.
履修上の注意	特になし。
連絡方法	初回の授業で説明する。

関連科目

科目番号	２４０３０
科目名・単位数	文化人類学　　４単位
科目ナンバリング	8-4（1-5）
時限	火曜日　２時限目
担当教員氏名	棚橋　訓　講師（お茶の水女子大学教授）
授業題目	文化人類学の視点から宗教について考える
授業の目的・概要	仏教を含む宗教の存在は社会科学においても重要な検討課題であり続けている。本講では、社会科学の一翼を担う文化人類学における宗教研究に焦点を当てて授業を進める。夏学期は文化人類学の諸理論を学び、理論諸派の観点の相違に起因する宗教分析の多様性について俯瞰する。冬学期は文化人類学とその関連領域において蓄積されてきた宗教に関する先行研究の精読と再検討を通じて、文化人類学の視点から宗教を考えるための理論枠組みと思考法についての理解を深めていく。
到達目標	受講者には、文化人類学を一つの例示として、社会科学の視点から成される宗教研究の理論と方法について知り、そうした理論と方法を用いて宗教を実証的に、そして相対化して考える技法を身に着けてもらうことを目標とする。
授業計画	【夏学期】 ①授業ガイダンス、社会科学と文化人類学：概観 ②文化進化論と宗教概念 ③文化伝播論と宗教研究 ④歴史個別主義・文化相対主義と宗教研究 ⑤フランス社会学＝民族学と宗教研究 ⑥機能主義・構造機能主義と宗教研究 ⑦文化の型、文化とパーソナリティ：文化論と宗教研究 ⑧新進化主義の宗教研究 ⑨生態人類学と宗教研究 ⑩構造主義人類学と宗教研究 ⑪象徴人類学と宗教研究 ⑫解釈人類学と宗教研究 ⑬マルクス主義人類学と宗教研究 ⑭エスニシティ研究・ナショナリズム研究と宗教研究 ⑮実践理論と宗教研究 【冬学期】 ①アニミズム ②儒教 ③ヒンドゥー教 ④仏教 ⑤キリスト教 ⑥イスラーム ⑦日常を生きるということ（通過儀礼、祖先祭祀、霊魂観） ⑧祝うということ（集合的激昂、反構造、コミュニタス） ⑨祀るということ（民間信仰、シンクレティズム） ⑩呪うということ（呪術、邪術、妖術） ⑪病むということ（治癒、病因論、災因論、プラシーボ） ⑫語るということ（神話、口承、書承） ⑬分け隔てるということ（ジェンダー、境界、浄不浄） ⑭魅了するということ（王権、聖者、巡礼） ⑮抗うということ（権力、抵抗、サバルタン）
授業の方法	夏学期・冬学期ともに講義・講読・個人発表・議論を柱に、講義と演習を折衷したかたちで進めていくが、夏学期は講義と議論を主軸に、冬学期は講読・個人発表と議論を主軸とする。授業各回は授業計画に記したトピックに錨を下ろして進めるが、博士前期・後期課程の授業であることから、受講者の専門領域・要望に応じて柔軟に各回のトピックにおいて授業内容は幅を広げていきたいと考えている。また、受講者各自の研究テーマへの応用も視野に入れて議論を進めたい。詳細については初回講義時の授業ガイダンスで触れる。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポートは添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	冬学期のレポートに平常点を加味して通年で評価。総合評価のうち、冬学期のレポートは 40%、平常点（授業中の発表と発言を含む）は 60%の比重。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	各回授業の講読内容については事前に知らせるので、発表者であるか否かに拘わらず、これを予習しておくこと。授業後、その内容を復習すること。予習に 3 時間、復習に 2 時間の時間をかけること。
テキスト	夏学期は岸上伸啓（編著）『はじめて学ぶ文化人類学―人物・古典・名著からの誘い』（ミネルヴァ書房、2018 年）、冬学期は関一敏・大塚和夫（編著）『宗教人類学入門』

	（弘文堂、2004 年、品切れのため棚橋が手配して配付）を基本テキストとし、随時、関連する専門論文等を追加配付する。
参考文献	佐々木宏幹『宗教人類学』（講談社学術文庫、1995 年）、大塚和夫『近代・イスラームの人類学』（東京大学出版会、2000 年）、吉田匡興・石井美保・花渕馨也（編著）『宗教の人類学』（春風社、2010 年）、長谷千代子・別所裕介・川口幸大・藤本透子 (編著)『宗教性の人類学―近代の果てに、人は何を願うのか』（法藏館、2021 年）、日本文化人類学会（編）『文化人類学事典』（丸善出版、2009 年）
履修上の注意	「授業の目的」・「授業の方法」・「到達目標」をよく理解したうえで、授業時には積極的に発言することを望む。
連絡方法	質問、面談希望等は授業時に申し出るか、以下のメールアドレス宛てに連絡のこと。tanahashi.satoshi[at]ocha.ac.jp（「at」は@マークに変えて送信）

仏教学特殊研究

科目番号	２４１０１
科目名	仏教学特殊研究
科目ナンバリング	10-0（1-5）
時限	水曜日　３時限目（夏学期）
担当教員氏名	代表者：　藤井　教公　教授 落合　俊典　教授　　斉藤　　明　特任教授 池　　麗梅　教授　　デレアヌ　フロリン　教授 幅田　裕美　教授　　藤井　教公　教授 堀内　俊郎　講師　（東洋大学教授　４月２４日担当） 齊藤　隆信　講師　（元佛教大学教授 ６月　５日担当） 蓑輪　顕量　講師　（東京大学教授　６月２６日担当）
授業の目的・概要	本学教員、並びに外部講師と受講者の学生諸君が、現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマ、トピックについて研究発表し、それについて全員による質疑応答を行う。その討議を通じて各人が仏教に対する知見を深めることを授業の目的とする。またこの授業を学生諸君にとっての学会発表、論文作成の訓練の場とする。
到達目標	学生諸君が自ら発表し、あるいは他の受講者の発表を聞いて、研究発表に慣れるとともに、自身の発表の態度や技術などの向上を目指す。また、仏教学上の諸問題について知見を広め、深い理解に達することを目標とする。
授業計画	初回の時に、教員、学生ともに発表の順番と日程を決め、各自一時間内外を持ち時間として、全体で質疑応答、討論を行う。
授業の方法	初回の授業の時に予め発表者を決める。発表予定者は配付資料などを各自が用意してパワーポイント、スライド、紙資料など、各自それぞれの方法を用いて発表する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	履修単位は設定されていない。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	事前に発表資料やテーマが明らかになっている場合、予習には 2 時間、復習には 2 時間程度をかけること。
履修上の注意	全学生は自己の研究上に必須のトレーニングと心得て、必ず出席すること。 コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２４１０２
科目名	仏教学特殊研究
科目ナンバリング	10-0（1-5）
時限	水曜日　３時限目（冬学期）
担当教員氏名	代表者：　デレアヌ　フロリン　教授 落合　俊典　教授　　斉藤　　明　特任教授 池　　麗梅　教授　　デレアヌ　フロリン　教授 幅田　裕美　教授　　藤井　教公　教授 室屋　安孝　講師　(神戸女子大学教授　１０月１６日担当) 神塚　淑子　講師　(名古屋大学名誉教授 １１月１３日担当) 宮﨑　展昌　講師　（鶴見大学仏教文化研究所准教授 １月２９日担当）
授業の目的・概要	本学教員、並びに外部講師と受講者の学生諸君が、現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマ、トピックについて研究発表し、それについて全員による質疑応答を行う。その討議を通じて各人が仏教に対する知見を深めることを授業の目的とする。またこの授業を学生諸君にとっての学会発表、論文作成の訓練の場とする。
到達目標	学生諸君が自ら発表し、あるいは他の受講者の発表を聞いて、研究発表に慣れるとともに、自身の発表の態度や技術などの向上を目指す。また、仏教学上の諸問題について知見を広め、深い理解に達することを目標とする。
授業計画	初回の時に、教員、学生ともに発表の順番と日程を決め、各自一時間内外を持ち時間として、全体で質疑応答、討論を行う。
授業の方法	初回の授業の時に予め発表者を決める。発表予定者は配付資料などを各自が用意してパワーポイント、スライド、紙資料など、各自それぞれの方法を用いて発表する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	履修単位は設定されていない。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	事前に発表資料やテーマが明らかになっている場合、予習には 2 時間、復習には 2 時間程度をかけること。
履修上の注意	全学生は自己の研究上に必須のトレーニングと心得て、必ず出席すること。 コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

留学生のための日本語

科目番号	２４１０３
科目名・単位数	日本語Ⅰ　　４単位
科目ナンバリング	10-4（1-5）
時限	火曜日　２時限目・金曜日　２時限目
担当教員氏名	宮田　聖子　講師（東京外国語大学非常勤講師）
授業題目	初級・中級前期の日本語　－初級文型とその応用－
授業の目的・概要	日本語レベル初級及び中級初期（学習時間 0～400 時間未満）の学生を対象に行う。 日本語の基本構造を習得し、四技能（話す・聞く・読む・書く）を養う活動へ発展させる。自分の意見をまとめ発表する力を身につける。 日常生活や学内での基本的な活動が問題なく行える日本語コミュニケーション能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験N3 または N2 レベル程度の日本語の力の獲得
授業計画	夏学期 第 1 回～第 4 回 初級文型・「話す・聞く」技能 第 5 回～第 8 回 初級文型・「読む・書く」技能 第 9 回、第 10 回 初級文型・四技能 第 11 回～第 15 回 中級文型・四技能 冬学期 第 1 回～第 3 回 中級文型・四技能 第 4 回～第 7 回 総合・読解・論述 第 8 回～第 13 回 総合・読解・論述 第 14 回、第 15 回 総合・プレゼンテーション
授業の方法	テキストを使用しつつ、クラウド上の共有ドキュメントに学生からのアウトプットとそれに対するフィードバック、重要項目の解説などを記録していく。初級前半においては、予習確認の小クイズ、文法の学習、応用練習を行う。読解の授業では語彙クイズ、読解、文法確認、討論、作文、発表の順に行う。また、毎回宿題を課す。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中に、あるいはクラウド上のドキュメントにて、基本的にはクラスで共有して行う。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、宿題およびこれから行われる授業 の概要を予習する。予習、復習に 4 時間をかけること
テキスト	受講生の日本語レベルに応じて決定する。
参考文献	『みんなの日本語初級Ⅰ，Ⅱ』スリーエーネットワーク　各国語版文法解説 『TRY!　日本語能力試験 N3 文法から伸ばす日本語』アスク出版 『中級へ行こう』スリーエーネットワーク
履修上の注意	授業はクラウド上の共有ドキュメントを使用して行う。各自、インターネットにアクセスし共有ドキュメントに日本語を打ち込めるように PC などを持参すること。 出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４１０４
科目名・単位数	日本語Ⅱ　　４単位
科目ナンバリング	10-4（1-5）
時限	火曜日　３時限目
担当教員氏名	宮田　聖子　講師（東京外国語大学非常勤講師）
授業題目	中級後期・上級の日本語　　－学術的活動へ－
授業の目的・概要	日本語レベル中級後半（初級基礎文型の習得が終了しており、学習時間が概ね 450 時間程度）以上の学生を対象に行う。 学術論文の読解ストラテジーを獲得する。また、討論、論評する活動を通してテーマについて論述するスキルと、それを口頭発表するプレゼンテーションスキルを養う。 日本語能力試験に向けて総合的なスキルを伸ばす。 日本での研究活動が十分に行えるより高度な日本語能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験N1 レベルまたはそれ以上の日本語力の獲得
授業計画	夏学期 第 1 回～第 7 回 文法 第 8 回～第 15 回 読解・能力試験対策 冬学期 第 1 回～第 7 回 能力試験対策 第 8 回～第 12 回 作文指導 第 13 回～第 15 回 プレゼンテーション指導
授業の方法	テキストを使用しつつ、クラウド上の共有ドキュメントに学生からのアウトプットとそれに対するフィードバック、重要項目の解説などを記録していく。日本語能力試験対策、読解、文法事項確認、討論、作文を行う。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中に、あるいはクラウド上のドキュメントにて、基本的にはクラスで共有して行う。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、宿題およびこれから行われる授業 の概要を予習する。予習、復習に 4 時間をかけること
テキスト	受講生の日本語レベルに応じて決定する。
参考文献	『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版、 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク 『上級日本語学習者対象　アカデミックライティングのための　パラフレーズ演習』スリーエーネットワーク
履修上の注意	授業はクラウド上の共有ドキュメントを使用して行う。各自、インターネットにアクセスし共有ドキュメントに日本語を打ち込めるように PC などを持参すること。 出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

留学生のための古文・漢文読解

科目番号	２４１０５
科目名・単位数	古文・漢文読解Ⅰ　　４単位
科目ナンバリング	10-4（1-5）
時限	水曜日　４時限目
担当教員氏名	田戸　大智　講師（早稲田大学非常勤講師）
授業題目	仏教漢文読解入門
授業の目的・概要	仏教では後漢の頃より仏典の漢訳が開始され、多くの漢訳仏典やそれにもとづく註釈書などが生み出された。仏教思想を解明するためには、正確な読解が要求されることは贅言を要しない。 本講義では、伝統的な訓読法を用いて、仏教漢文が読解できるようになることを目的としている。日本では漢文を日本語で解釈するための訓読法が体系化され、仏教漢文もまたこの方法によって理解されてきた。訓読法を習得すれば、文法構造を把握する能力が高まり、感覚的に読むことで起きる間違いを防止できる利点がある。特に日本仏教研究を行うためには、訓読法を習得することが必須である。 そこで、訓読による仏教漢文の読解を修練していくために、前期ではまず、テキストにもとづいて基本文法を確認する。次に後期では基本文法を適宜参照しながら、様々な仏教漢文を取り上げ、実践的に訓読法を学習していきたい。後期では、経典や論書、中国の伝記史料、日本の仏教漢文などを読み進めていく予定である。
到達目標	日本の凝然（1240～1321）が撰述した『八宗綱要』上下 2 巻（大日本仏教全書 3 所収）を訓読できる能力の修得を到達すべき目標としたい。
授業計画	前期 1　ガイダンス、訓読の必要性 2~3　仏教漢文の学習方法、漢和辞典・仏教辞典の使用法と実習 4~5　テキストとプリントの実習（1～3 章） 6~7　テキストとプリントの実習（4～5 章） 8~9　テキストとプリントの実習（6～7 章） 10~11 テキストとプリントの実習（8～9 章） 12~13 テキストとプリントの実習（10～11 章） 14~15 テキストとプリントの実習（12～14 章） 後期 1　ガイダンス 2~3　『法苑珠林』・『父母恩重経』 4~5　『弥勒上生経』・『大智度論』 6~7　『理惑論』・『沙門不敬王者論』 8~9　慧皎『高僧伝』・道宣『集神州三宝感通録』 10~11　一行『大日経義釈』・曇鸞『浄土論註』 12~13　法藏『華厳五教章』・基『大乗法苑義林章』 14~15　諦観『天台四教義』・凝然『八宗綱要』など
授業の方法	毎回配付する資料にしたがって授業を進める。漢文はすべてノートに書き写し、返り点を付けたり書き下し文に直す作業を繰り返し行う。また声に出して読むことで漢文のリズムを習得する。語彙が不明である場合は、常に漢和辞典や仏教辞典で調べるよう訓練する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントし、訓読の確認を行う。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	講義で配付した資料は、予習と復習を通して繰り返し読み込むことが実力の向上につながる。訓読の基本文法はテキストを適宜参照して解説するが、演習問題は各自復習して頂きたい。予習、復習に４時間をかけること。
テキスト	『句形演習　新・漢文の基本ノート〈二色刷〉』（日栄社、1998）を主なテキストとし、『新・要説文語文法〈五訂新版〉』（日栄社、2015）も必携とする。この他、プリントを配付する。
参考文献	加地伸行『漢文法基礎－本当にわかる漢文入門－』（講談社学術文庫、2010）、金岡照光『仏教漢文の読み方』（春秋社、1978）、木村清孝編著『仏教漢文読本』（春秋社、1990）、その他、各辞典などは教場にて指示する。

履修上の注意	①授業では漢文訓読を実習形式で行うので、専用ノートを準備して予習と復習を必ず行う。 ②電子辞書や電子機器類の使用は禁ずる。語彙は必ず辞書で調べるようにする。 ③「古文・漢文読解Ⅱ」の講義を併せて聴講することが望ましい。
連絡方法	メール（初回の授業で確認する）

科目番号	２４１０６
科目名・単位数	古文・漢文読解Ⅱ　　４単位
科目ナンバリング	10-4（1-5）
時限	水曜日　５時限目
担当教員氏名	小島　裕子　講師（東京都立大学非常勤講師）
授業題目	仏典訓読初学講座
授業の目的・概要	仏典の漢文は記載言語として表わされた古典語（文語）で、たとい現代中国語を母国語として自在に使用しているとしても、その特殊な文章構造の分析を介した完全な理解という点では次元を異にしよう。こと日本においては、漢字文化の受容とともに、その言語表記を享受するため、日本語によって漢文の文章構造を分析し、正確に文意を解釈するための学問が古来より培われてきた。「訓読」である。 本講座は、漢文訓読のなかでも、特に寺院文化圏における学僧が行ってきた仏典訓読の学問を視野に入れ、とりわけ学ぶ機会の稀な「漢訳仏典に対する伝統的な訓読法」の習得をめざす。特に、日本語としての文体を整える上で決め手となる「文語文法」（経典読解に特化した）の解説に重点を置いて授業を行う。 実例文献に基づく訓読法（訓点を付して訓読する方法）の教授に併行して、訓読に有用な主要辞典（仏教系・国語系）の使用方法について教示したり、訓読に対する理解を深めるための「日本語表記の変遷」などにも言及したりすることで、文献資料学を究める受講者各自の研究の将来に資する講義でありたい。
到達目標	貴重な仏教文献資料を詳細に読み解いてゆくために必要とされる日本語表記の習得、各種仏教辞典の特徴を把握し、要語項目を読解して実際の研究に生かす能力を身につけることをめざす。 漢文の白文に訓点を付す方法を習得して訓読法の実践に備えるとともに、訓読文の決め手となる文語文法を身に着ける。
授業計画	《夏学期》 1 初回に授業の指針を述べる。「望月仏教大辞典」から要語を選び、引用された漢文の訓読体を正しい文法理解によって読むことができるか、また旧漢字の表記に対応できるかなどの問題定義を行ない、以後の具体的な授業に臨む姿勢を確認する。 2「訓読」という学問① 大正新脩大蔵経の漢訳仏典に対する国訳一切経・国訳大蔵経・新国訳大蔵経・仏典講座等の紹介、解説。 3「訓読」という学問② 具体的に学僧が訓点を付した写本・版本を紹介し、「訓読」とは何かを学ぶ意識を備える。 4 自ら「訓読」を行うために必要な主たる仏教学系辞典、および国語学系辞典の紹介を行なった上で、活用の実践に入る。 以下、5 回より演習と講義 5-9　仏典に頻出する【「動詞活用表」作成プロジェクト】 義浄訳『金光明最勝王経』（影印）を訓読法習得のための底本に据え、各品の訓読箇所の動詞を抽出、訓読の仕方について実際に辞書を引きながら学び、活用法を詳細な文法の解説を通して習得する。以下、動詞表は講義で遇した諸経典内の動詞についても随時書き込みを加え、年間を通して完成。 10-12　仏典に頻出する仮定表現について、動詞の活用の型を徹底的に学び、それに伴う助動詞も同時に習得する。 13-15　仏典に頻出する受身・使役などの助動詞の様々な事例・訓読、および関連の文法を習得する。 《冬学期》 夏学期に引き続き、義浄訳『金光明最勝王経』（影印）を底本に 以下の項目を実践する。 16-17　仏典の型「六時成就（如是・我聞・一時・佛・在某所・与 某衆俱）」、「白佛言」、「白～曰」などを学ぶ。 18　仏典に頻出する副詞（否定・時間・範囲・程度・状態・語気）について概論的な講義を行い、以後の講義に備える。 19-21 仏典に頻出する「否定副詞」事例・訓読、関連の文法 22-24 仏典に頻出する「時間副詞」事例・訓読、関連の文法 25-27 仏典に頻出する「程度副詞」事例・訓読、関連の文法 28-29 仏典に頻出する「状態副詞」事例・訓読、関連の文法 30　年度内総括　今年度の「動詞活用表」の完成
授業の方法	講義と演習（習熟のための練習）を繰り返すことで、受講者のリテラシーの向上をはかる。年間を通して、一般古典の文法書に挙がる用例では不十分な「仏典に頻出する動詞」について、その活用と仮名訓を一覧できる独自の【「動詞活用表」作成プロジェクト】

	を受講生とともに遂行、当該教室における成果として構築してゆく。表の作成は文字の記入のみに止まらず、声に出して復唱する実践を伴うことで、記憶的な効果へと繋ぐ。
教員から学生へのフィードバック方法	授業内に必要に応じてコメントをするほか、メールなどでの相互連絡の上、個別に対面で対応することも可。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	各自、毎回の講義で配布する参考資料をファイリングし、受講前の予習として必ず目を通した上で授業に参加すること。蓄積されゆく資料を重ねて通読することを通して、次第に理解は深まる。 受講後は必ず授業内容を反芻し、次回の授業に備えること。準備学習として、予習に 120 分、復習に 120 分程度の時間を要する。
テキスト	訓点入りの仏典資料（影印）を配布し、「訓読とは何か」を理解するための主要テキストとする。補足テキストとして望月信亨『仏教大辞典』の要語項目の配布。文語文法の解説書として『新・要説文語文法 〈五訂新版〉』（日栄社）、辞書として『新版古語辞典〈机上用〉』（角川書店）を各自の必携とする。
参考文献	中村元-仏教語大辞典、望月信亨-仏教大辞典、織田得能-仏教大辞典、岩本裕-日本仏教語辞典など各種仏教系辞典。日本国語大辞典-小学館、新漢和大字典-学研、日本語文法大辞典-明治書院など各種国語系辞典。異体字やくずし字辞典などの字典類、および古辞書類など。講義時に随時、紹介してゆく。
履修上の注意	本講座は、仏教文献資料学を遂行するために必要な基礎を学ぶ留学生の読み書き、リテラシーの向上をめざして開設する。日本語習得のステップを踏みながらの受講であることを配慮し、説明などは懇切に行ってゆくことを心がけるが、基礎を修めるということにおいて、日本語を母国語とする者と何らレベルの上で変わらぬ有益な内容を提示することを断っておきたい。 併設の「古文・漢文読解Ⅰ」とともに受講することが望ましい。
連絡方法	メール（初回の授業で確認する）

未修者のためのサンスクリット語

科目番号	２４１０７
科目名・単位数	サンスクリット語　　４単位
科目ナンバリング	10-4（1-5）
時限	月曜日　３時限目
担当教員氏名	宮本　久義　講師（元東洋大学教授）
授業題目	サンスクリット語入門
授業の目的・概要	サンスクリット語の文法を学習し、インド哲学仏教学文献の読解力を身につけることを目的とする。サンスクリット語はインドの文学、思想、宗教を育み、サンスクリット文化という言葉があるように、インド人が構築した有形・無形の価値観の理解に必須の言語である。インドではサンスクリット語の習得には三生かかるといわれている。これは大分誇張されたことばではあるが、実際文法規則が多いのは事実である。しかし、他の言語と同様、覚える規則は最小限に絞り、系統立てて学習することにより、十分習得可能な言語である。本講は初学者のために開講するが、復習のために参加したいという受講生も対象とする。
到達目標	サンスクリット文法の基礎を習得し、文法書と辞書を使用して各自が研究対象とする文献を研究する際の読解力を養うことを目標とする。
授業計画	夏学期 第 1 回：インドの言語について 第 2～3 回：文字と発音 第 4 回：母音の階梯、絶対語末 第 5～7 回：連声法 第 8～10 回：名詞・形容詞の変化 -a- 語幹 第 11～13 回：名詞・形容詞の変化 -a- 語幹以外の語幹 第 14～15 回：代名詞、数詞 冬学期 第 1 回：動詞の概要 第 2～5 回：第 1 次活用法（現在・アオリスト・完了・未来） 第 6～8 回：第 2 次活用法（受動・使役） 第 9～11 回：準動詞（過去分詞など） 第 12～13 回： 複合語 第 14 回：韻律 第 15 回：総括
授業の方法	長柄行光著『サンスクリット文法』に従って解説する。補足すべき点があれば、資料を配布する。文法事項解説の進み方に合わせて、練習問題にも取り組んでもらう。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習・復習ともに 120 分程度の時間をかけてほしい。
テキスト	長柄行光著『サンスクリット文法』2002 年。私家版（非売品）なので、受講生にはこちらで配布する。
参考文献	Charles Rockwell Lanman, *A Sanskrit Reader: Text and Vocabulary and Notes*, Harvard University Press, 1884.（リプリント版が廉価で入手可能） 辻直四郎『サンスクリット文学史』岩波全書、1973 年
履修上の注意	文法の学習において、予習はその日の授業で何を学ぶのかを予め把握しておく作業である。それゆえ長い時間をかける必要はないが、わからない点を押さえておくことが肝要。いっぽう、復習は習ったことが文法規則全体のどの部分を構成するのかをしっかりと押さえ、さらに最小限暗記すべき規則を暗記する努力をしなければならないので、十分な時間をかけることが望ましい。また語学習得という授業の性質上、欠席はできる限りしないように。受講生は疑問点が残らないように、何度でも質問していただきたい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２４１０８
科目名・単位数	サンスクリット語（中級）　　４単位
科目ナンバリング	10-4（1-5）
時限	火曜日　３時限目
担当教員氏名	須藤　龍真　講師（早稲田大学高等研究所講師）
授業題目	サンスクリット文献講読
授業の目的・概要	サンスクリット語の文法規則を一通り学習し終えた履修者を対象に、平易なサンスクリット文献の講読を通して、文法規則の定着や辞書・文法書の活用方法の習得を促すことが本授業の目的である。仏教を含む古典インド世界における宗教・哲学、社会・文化に広く親しむことは各自の研究領域の幅を拡げることにも繋がる。本授業では、散文・韻文含む多種多様なテキストを講読する。
到達目標	インド系文字の特徴や文法規則・連声をよく理解し、文法書や辞書を活用して、基本的なサンスクリット文を分析し、訳出する能力を養うことを目標とする。
授業計画	夏学期 〇初めは教科書の語彙集を活用しながら、比較的平易な文学作品の講読を行い、基本的な辞書の引き方・文の構造の分析方法を丁寧に確認していく。 1: 授業説明、各自の学習状況の確認、テキスト選定 2-14: テキスト講読 15: テキスト講読、冬学期への橋渡し 冬学期 〇徐々にテキストのジャンルを哲学文献や法典などに拡げつつ、どのようなサンスクリット文献にも対応できる環境を整える。 1–15: テキスト講読
授業の方法	受講者全員による講読テキストの輪読（発音・和訳・解釈・議論）。講読テキストは学習状況にあわせて初回授業内にて選定する。 各種資料や各自の和訳の共有方法については、授業内で説明する。 内容を正確に理解することはもちろんのこと、一意あるいは様々な解釈が生じうる根拠を特定するプロセスに重きを置く。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする。また、必要に応じて、個別に対面あるいはメールでの相談にも対応する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業はあくまで確認の場であり、サンスクリット文の構造を自分自身で分析することが最も肝要である。十分な予習を行った上で、積極的な授業への参加を期待する。また、復習を通して、文法規則の定着をはかること。予習に 180 分、復習に 60 分を見込む。
テキスト	Charles Rockwell Lanman, A Sanskrit Reader: Text and Vocabulary and Notes, Harvard University Press, 1884. その他、授業内で適宜指示する。
参考文献	辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店） その他、授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	サンスクリット語初級相当の文法規則に関する知識があれば、履修者の制限は設けない。
連絡方法	初回の授業で説明する

未修者のためのチベット語

科目番号	２４１０９
科目名・単位数	古典チベット語　　４単位
科目ナンバリング	10-4（1-5）
時限	金曜日　５時限目
担当教員氏名	石川　　巌　講師（中村元東方研究所専任研究員）
授業題目	初級チベット語文法
授業の目的・概要	チベット語の古典を音読し、翻訳しうるようにするために、実践的なチベット語文語文法を講ずる。間々、背景としてのチベット文化についても解説しながら進めていく。
到達目標	チベット語の古典を音読し、古典一般に対し基本的な翻訳ができるようにする。
授業計画	夏学期 1 回：チベット文字 2 回：冠字と添足字 3 回：添前字、添後字、再添後字 4 回：辞書の引き方 5 回：名詞、形容詞、代名詞 6 回：不定助辞、複数辞、数詞、序数詞 7 回：属格助辞の体言用法、結合接続辞、etc 辞、類例辞 8 回：略形化と並置 9 回：認定の叙述 10 回：存在の叙述 11 回：動詞と具格助辞の体言用法 12 回：於格助辞の体言用法と否定辞 13 回：動名詞と分詞 14 回：従格助辞の体言用法 15 回：試験 冬学期 1 回：総括詞 2 回：選択接続辞 3 回：具格助辞と na 以外の於格助辞の用言用法 4 回：於格助辞 na の用言用法と助動詞構文 5 回：名詞複合語を形成する bya、byed、mkhan 6 回：従格助辞の用言用法、未完接続辞、結合接続辞 7 回：連動接続辞 8 回：中断、反戻の語と古典の実際 9 回：引用と言及の助辞 10 回：関係詞と命令法 11 回：時の接続詞と過去・完了の助動詞 12 回：未来、進行、経験、使役の助動詞 13 回：読解練習①経典の書き出し 14 回：読解練習②問答の文 15 回：試験
授業の方法	プリント教材を配布して講義を行いつつ受講者に練習問題に当たらせる。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中その都度コメントする他、メールで質問も受け付け、メールで回答しつつ授業でも紹介する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）およびテストにて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習にそれぞれ 2 時間をかけること。なお、練習問題や読解練習の予習については時間内に終わらなくとも途中放棄せず、該当の回のものは一応全て終えること。
テキスト	プリント配布。
参考文献	山口瑞鳳『チベット語文語文典』春秋社、2002 年。
履修上の注意	特になし。
連絡方法	初回の授業で説明する